

平成29年7月九州北部豪雨災害に係る被災地への支援活動について（報告）

平成29年7月5日からの記録的な豪雨は、福岡・大分両県に甚大な被害をもたらした。この災害による被災者の生活再建に向けた復旧作業を支援するため、福岡県内に朝倉市災害ボランティアセンター（本部と杷木サテライト）、東峰村災害ボランティアセンター（小石原本所と宝珠山サテライト）、添田町災害ボランティアセンターが開設され、大分県には日田市災害ボランティアセンター（本所と大鶴サテライト）が開設された。

鹿児島県社会福祉協議会では、九州ブロック社会福祉協議会災害時相互応援協定に基づき、市町村社会福祉協議会との緊密な連携のもと応援職員の派遣調整を行いつつ、九州社会福祉協議会連合会と派遣先を調整しながら、被災地への支援活動を次のとおり展開した。

なお、前述のほか鹿児島県、鹿児島県市町村社会福祉協議会連絡協議会、日本青年会議所九州地区鹿児島ブロック協議会、日本防災士会鹿児島県支部などからも多くのお力添えをいただいたことから改めてお礼申し上げます。

1 被災地の災害ボランティアセンター運営支援

(1) 被災地災害ボランティアセンターへの応援職員の派遣実績

ク ー ル	期 間	災 害 V C 別 の 派 遣 実 績		
		福岡県 東峰村災害VC (宝珠山サテライト)	大分県 日田市災害VC (本所・大鶴サテライト)	福岡県 朝倉市災害VC (本所・杷木サテライト)
③	07/29～08/02 (4泊5日)	2市社協から3人派遣	県社協から1人派遣 (本所)	
④	08/02～08/05 (3泊4日)	2市1町社協から4人派遣	県社協から1人派遣 (大鶴サテライト)	
	08/06～08/08	【台風5号接近のため派遣中止】		
⑤	08/09～08/12 (3泊4日)	2市社協から3人派遣	県社協から1人派遣 (大鶴サテライト)	
	08/13～08/15	【災害VC全所お盆休止】		
⑥	08/15～08/18 (3泊4日)	2市社協から3人派遣	派遣終了	
⑦	08/18～08/21 (3泊4日)	2市社協から3人派遣	派遣終了	
⑧	08/21～08/24 (3泊4日)	2市社協から3人派遣	派遣終了	

ク ール	期 間	災 害 V C 別 の 派 遣 実 績		
		福岡県 東峰村災害VC (宝珠山サライト)	大分県 日田市災害VC (本所・大鶴サライト)	福岡県 朝倉市災害VC (本所・杷木サライト)
⑨	08/24～08/27 (3泊4日)	2市社協から3人派遣	派遣終了	/
⑩	08/27～08/30 (3泊4日)	1市1町社協から3人派遣	派遣終了	
⑪	08/30～09/02 (3泊4日)	2市社協から3人派遣	派遣終了	
⑫	09/02～09/05 (3泊4日)	派遣終了	派遣終了	1町社協から2人,県社協から 1人の計3人派遣(杷木庁)
⑬	09/05～09/08 (3泊4日)	派遣終了	派遣終了	1市社協から2人,県社協から 1人の計3人派遣(杷木庁)
⑭	09/14～09/15 (1泊2日)	派遣終了	派遣終了	2市社協から2人,県社協から 1人の計3人派遣(本所)
	08/06～08/08	【台風18号接近のため派遣中止】		
⑰	09/18～09/20 (2泊3日)	派遣終了	派遣終了	1市社協から1人,県社協から 1人の計2人派遣(本所)
●派遣人員数…延べ42人(県社協7人,市町村社協35人,派遣先別内訳延べ数は次のとおり) 東峰村に延べ28人(13市町社協から28人),日田市に延べ3人(県社協から3人), 朝倉市に延べ11人(5市町社協から7人,県社協から4人) ●派遣市町村社協数…15市町社協				

注1.第①クールは07/21～25,第②クールは07/25～29であり,鹿児島県は第③クールからの派遣開始となっている。

注2.朝倉市の災害ボランティアセンターの第①クールから第⑭クールまでの運営支援は,九州ブロック内の他県等から別途応援が入っている。

注3.7/29～8/31までを予定していた日田市災害ボランティアセンターへの派遣については,一定の見通しがついたため盆明け以降の派遣要請は解除された。

注4.当初1クール4泊5日としていたが,猛暑による健康管理のため盆明け以降1クール3泊4日になった。

2 寄付の取組

被災者の生活復旧や被災地災害ボランティアセンターの運営に役立ててもらうため,次のとおり義援金や活動支援金の寄付を行った。

(1) ボランティアポロ・Tシャツの販売益金の一部を義援金として寄付…100,000円

(H29/9/8_日本赤十字社鹿児島県支部へ)

(2) 鹿児島県市町村社会福祉協議会連絡協議会では,被災地災害ボランティアセンターを財政面で支援することを目的に集めた寄付金を活動支援金として寄付…1,027,575円

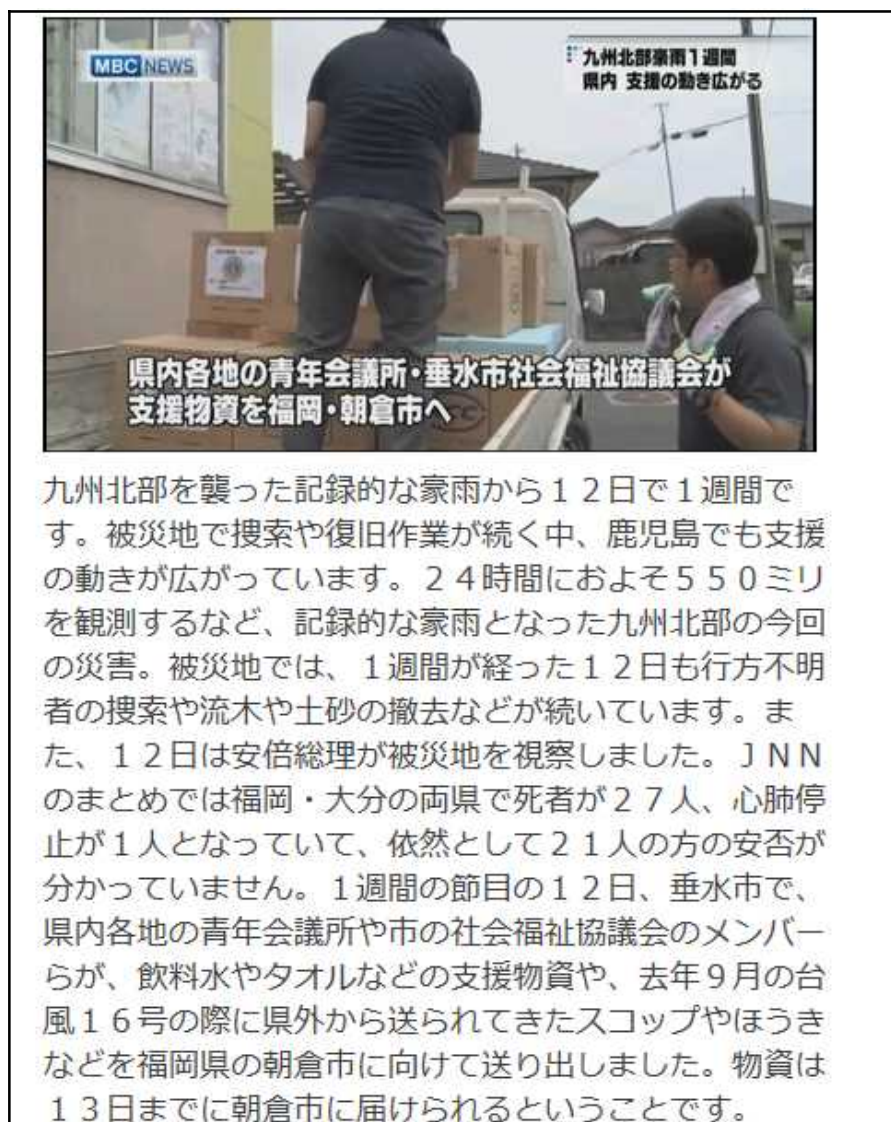
(H29/8/25_福岡・大分の両県社会福祉協議会へ)

参考) ボランティアポロ・Tシャツの販売益金の一部については,上記(1)のほか熊本地震の義援金としても100,000円の寄付を行った(H29/9/8_鹿児島県共同募金会へ)

3 関係団体の動きや連携等

(1) 日本青年会議所九州地区鹿児島ブロック協議会（JC）との連携

昨年の台風16号災害の際に、JCの協力で垂水市災害ボランティアセンターに届けられた活動資機材の一部を、九州北部豪雨被災地の災害ボランティアセンターに提供したい旨の申し出を受け、垂水市社会福祉協議会と連絡調整を行うなど速やかな物資搬送に寄与した。



上記画像はMBCホームページより H29/07/12

(2) その他の団体等との連携

ア 福岡・大分の両県内の災害ボランティアセンターに人的派遣を行うにあたり、高速道路の利用に係る「災害派遣等従事車両証明書」の交付について、県社会福祉課地域福祉係と連携を図った。

イ 日本防災士会鹿児島県支部や災害NPO等による支援活動の情報収集・把握に努めた。

4 広報やその他の取組

- (1) 被災地情報が容易に取得できるよう県社協のホームページ内に九州北部豪雨に係る専用バナーを設け、被災地災害ボランティアセンターの公式ウェブサイトやFacebook等にアクセスできるよう更新するとともに、ボランティアに向かう上での心構え等についても周知した。
- (2) 市町村社協に対して、被災地支援・災害ボランティア情報の送信、派遣メンバーに対する派遣期間中の留意点及び最新情報等をまとめた手引きを送信するなどして、円滑な被災地支援になるよう努めた。

5 結びに

- (1) 九州各県・指定都市社会福祉協議会による派遣期間は、平成29年7月21日から平成29年9月29日までの71日間と長期間に及んだ。昨年の台風16号災害による垂水市災害ボランティアセンターの開設期間が15日間であったことから、九州北部豪雨災害の規模の大きさがうかがえる。
- (2) 人的支援の面においても、昨年の台風16号災害では県域での応援体制でまかなえたが、九州北部豪雨災害では、九州ブロック（304人）のほか中国ブロック（100人）及び四国ブロック（32人）からの応援がなければ、災害ボランティアセンターの運営がままならなかったことから、大規模災害時における広域支援ネットワークの重要性を再確認することができた。
- (3) 九州は、昨年の熊本地震から2年続けて大規模災害に見舞われた。被災者の“くらしの再建”に向けた支援活動は、災害ボランティアセンター閉所後の方が長い。外部支援者が去った後の地道で被災者目線に立った支援のあり方について、被災地に学ぶべき点は多い。

以 上